

# デイサービスにおける 入浴支援のありかた

～一人ひとりの入浴への寄り添い方を見つける大切さ～

浜松中央長上苑  
デイサービスセンター 鈴木 久美子

1

きっかけ



お風呂は毎日家に入っているから いいよ～!

こんなところじゃなあ～!!



昔は夫婦

2

## 入浴支援の現状と理想

現状

入浴介助が一定職員

残存機能を最大限に活か  
かせない環境

ただ入るだけ、入れる  
だけの入浴

理想

どの職員でも入浴介  
助できる

ADLを高められる環境

幸福感が高い入浴

3

## 課題

1. 入浴ケアの水準のバラつき
2. 入浴を拒む方へ対応できる職員に偏り
3. 在宅介護に繋がられる支援
4. 入浴することだけが目的となってきた

4

## 1. 入浴ケアの水準のバラつき

### 現 状

- 利用者を安全・残存機能を活用できる場所に誘導できていない
- 利用者に必要な介助量が把握できていない
- 認知症の方への介助方法がわからない

5

### 取り組み

利用者の**安全性・残存機能の活用・介助量の軽減・介助方法の習得**

- 月一回のワーカー会議で研修会を開催
- 利用者の能力が発揮できる環境整備
- 実演研修の開催



6

### 成 果

- 利用者にも介助者にも安心・快適なケアが実践できるようになった
- 過剰介護を減らすことで、自立支援を高めることができた
- 職員の学ぶ意欲やスキルアップに繋がった

7

## 2. 入浴を拒む方へ対応できる職員に偏り

### 現 状

- 利用者に合わせた入浴を促す声掛けスキルに差があった
- 入浴への心理状況を把握せずに誘導を進めてしまう
- 安心して入浴できる職員が限定されていた

8

## 取り組み（事例1） 80歳女性 要介護1

利用者に合わせた入浴を促す声掛けスキルに差があった  
入浴への心理状況を把握せずに誘導を進めてしまう

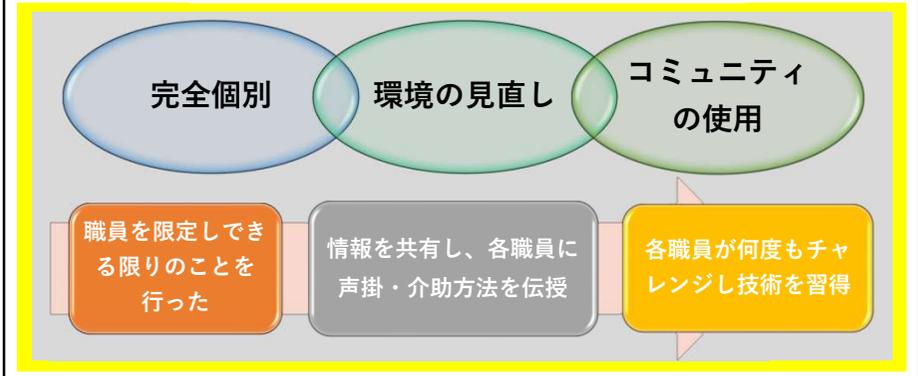
- 仲の良いご利用者と入浴時間帯を合わせる対応をした
- 言葉の変換を巧みに使い、入浴に気持ちが向くように対応した



9

## 取り組み（事例2） 93歳女性 要介護1

安心して入浴できる職員が限定されていた



10

## 成果（2事例より）

- 各職員の声掛けがスキルアップできたことで誘導へのチャレンジが増えた 
- 利用者への関心を強く持つことでコミュニケーションが増え、誘導がスムーズできるようになった。 

11

## 3. 在宅介護に繋がられる支援

### 現状

- ご本人とご家族の想いに共に寄り添っていく必要がある
- 車いす生活ではあるが、在宅での入浴の希望があった

12

## 取り組み（事例1） 91歳女性 要介護1

ご本人とご家族の想いに共に寄り添っていく必要がある



13

## 取り組み（事例2） 84歳女性 要介護4

車イス生活ではあるが、在宅での入浴の希望があった

- 機能訓練士が介入し、自宅に残存機能が活かせる場所に手すりを設置した
- 入浴動作の機能訓練を実践した



14

## 成果（2事例から）

- 自立度が高まり、自宅での入浴が可能になった
- デイサービス利用時、自宅と同じ環境の下で入浴ができている
- ご利用者のご家族が在宅生活の介護支援の不安や負担が軽減された



15

## 4. 入浴することだけが目的となってきた

### 現状

- 利用者が増えてきたことで、職員にゆとりが持てず、利用者満足度に不安を抱くことが多くなった
- 入浴させることが優先的になり、業務的になってきた

16

## 取り組み

リフォーム&代わり湯

17

## 成果

- イベントなどを取り入れたことにより、表情豊かに入浴され、満足度を高めることができた
- 業務改善により職員にゆとりが持て、利用者とのコミュニケーションが増えた

18

## まとめ

研修開催により、抱えていた不安などが解消され、職員のスキルアップや業務効率に繋がった



「その人らしく」利用していただくために、「その人を知る」ことの大切さを再確認することができた

職員間での情報共有により、自立度を高め、安心・安全な支援が実施できるようになった

環境の見直しにより、「残存機能の活用」「サービスの質向上」「職員の意識向上」に繋がった

19

## 今後の課題

- 利用者の入れ替わりが多くなっていく現状でADLや意欲低下している方への支援方法の向上
- 入浴に関する改善・疑問点などの情報共有の場を定期的に設けていく
- 難題のある利用者でも諦めることなく、原因や対策を分析していく

20

ご清聴ありがとうございました